広島市立飯室小学校　３学年　学級活動（２）学習指導案

授業者：松 田　悠 太　　授業日時：令和４年１０月２８日（金）１０：００～１０：４５　　学　年：第３学年１組（１６名）

題材　「相手を大切にした言葉」　（学級活動（２）イ　よりよい人間関係の形成）

１　目指す児童の姿と子どもに付けさせたい資質・能力

自分に合った具体的な行動目標を意思決定できるようにしたい。
言葉遣いにより，学級の雰囲気や人間関係が変わるということを実感させたい。

協働性	主体性	創造性
友達と交流しながら，「相手を大切にした言葉遣い」について，考えを深めている。	進んで「相手を大切にした言葉遣い」をしようとしている。	自分の課題を見つけ，自分に合った具体的な行動目標を考え，設定している。

３　評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し，よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気付き，解決方法などについて話し合い，自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために，見通しをもったり振り返ったりしながら，意欲的に課題解決に取り組み，他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。
目指す児童の姿	相手を大切にした言葉の使い方について，理解している。	相手を大切にした言葉遣いについて考え，自己決定したことを実践している。	自分の言葉遣いを見直し，意欲的に「ふわふわ言葉」を使おうとしている。

２　題材について

(1)　児童の姿

本学級では，年度当初に「元気１００％１・２年の手本となる学級（あいさつをする。意見を言う。きまりをまもる。人に優しくする。）」という学級目標を設定した。本学級の児童は穏やかで，困っている友達がいた時，進んで手を差し伸べようとする優しい児童が多い。

その一方で，単学級で児童同士のつながりが深いため，お互いに気を許すあまり，言葉遣いが乱れることが多い。中には，相手の気持ちを考えていないような言葉を発してしまう児童もいる。

(2)　題材設定の理由

言葉遣いは，人間関係を作っていくうえで，非常に大切な要素である。児童自身が学級に「ふわふわ言葉」を増やすにはどうすればよいかを考え，自己決定した個人としての目標を実践することは，成長につながる。また，相手を大切にした言葉を増やすことは，学級目標である「人にやさしくする。」につながる部分があり，学級の雰囲気がますます明るくなると考え，本題材を設定した。

(3)　指導観

活動を進めるに当たって，児童がこの題材を学級全体の問題として捉え，課題意識をもつことができるようにするために，事前に児童・保護者アンケートを実施する。そして，アンケートの結果を分析・整理して，授業の導入で提示することにより，一人一人が自分自身の問題として，課題をつかむことができるようにする。また，自己決定したことを実践し，自分の行動を振り返り，評価するなど，事後活動にも時間をかけて取り組み，実践意欲が継続できるようにする。

4　指導と評価の計画

(1) 事前の活動

活動内容と教師の支援	
9／5	児童アンケート①を行い，結果を整理する。
9／12	児童アンケート①の結果を踏まえ，児童アンケート②を実施する。その後，児童に聞き取りを行う。
9／20	児童アンケート③を実施し，結果を整理・分析する。
9／26	保護者アンケートを実施し，結果を整理・分析することで，授業で活用できるようにする。

(2) 本時の展開

本時のねらい

自分が普段使っている言葉が学級の雰囲気に影響を与えていることに気付き，相手を大切にした言葉遣いをすることができる。

	学習活動	教師の支援	目指す児童の姿と評価方法
つかむ	1　アンケート結果を見て，学級の課題を把握する。 2　本時のめあてを確認する。	○　喧嘩が起きた時の場面や状況を問うことで，些細なことでの言い合いが多いということに気付くことができるようにする。	○　アンケート結果を見て，自分の普段の言葉遣いを見直している。 （観察）
	めあて　友達と仲良くなる方法について考えよう。		
さぐる	3　友達と言い合いになる原因を考える。	○　自分の今までの経験から，言い合いの原因を探ることができるようにする。	
見つける	4　友達と仲良くなる方法について考える。 5　知っている「ふわふわ言葉」を出し合う。	○　「さぐる」で考えたこととつなげて考えることで，相手意識をもつことの大切さに気付くことができるようにする。 ○　ミライシード（オクリンク）を活用することで，短時間で多くのふわふわ言葉に触れることができるようにする。	○　相手を大切にした言葉の使い方について，理解している。 （ワークシート・発言）
決める	6　意思決定する。 7　意思決定したことを伝え合い，実践する。 8　教師の応援のメッセージを聞く。	○　自己決定したことをロールプレイすることで，意欲を高めることができるようにする。	○　相手を大切にした言葉遣いについて，意思決定したことを実践している。 （ワークシート・観察）

(3) 事後の活動

活動内容と教師の支援	
10／31から11／4	自分で決めた目標が実行できるように「ふわふわ言葉を使おう！週間」を設け，実行する。
11／4	振り返りをする。

(4) 新しい活動	児童が使った「ふわふわ言葉」を集め，「ふわふわ言葉の木」に掲示する。

他教科等との関連	国語科「山小屋で三日間すごすなら」　道徳科「よごれた絵」「水やり係」「三年元気組」